

中学校の運動部活動は、こんなふうに行われています！

～平成18年度中学校運動部活動アンケート結果から～

長野県教育委員会事務局スポーツ課



調査時期 平成18年6月～7月
対象学校 県内公立中学校193校
調査方法 質問紙法

1 どのくらいの中学生が運動部活動で活動しているの？

41,092名〔男子 25,087名 女子 16,005名〕が、活動しています。これは県下の中学生の約65%です。男女別の加入率は男子が約78%、女子が約52%です。加入率は、昨年度とほぼ同じです。

2 複数の入部は認められるの？

複数の入部は、認めていない学校が多く約76%になります。冬季スポーツ(スキー・スケート)との複数入部や大会参加のために暫定的に複数入部を認めている学校もあります。

3 仮入部はみんなあるの？

仮入部は、約93%の学校で実施し、実際に活動を体験した上で、正式に入部することになっています。実施していない学校は、小規模の学校で、わずかな部数しかない学校です。

4 活動計画は誰が立案しているの？

顧問の先生の考えだけで決定している学校が約21%、生徒の希望を聞きながら共に立案している学校が約23%あります。

5 どのくらい練習しているの？

【シーズン中・・・中体連の本大会が盛んな主に一学期】

朝・・・	～30分	約57%
	～45分	約36%
放課後・・・	～1時間30分	約15%
	～2時間	約31%
	～2時間30分	約36%
	～3時間	約17%



【シーズンオフ・・・中体連の新人大会のある二学期から冬の練習】

朝・・・	～30分	約57%
	～45分	約33%
放課後・・・	～30分	約66%
	～1時間	約17%

練習なし 約14%

- ・放課後の練習時間は、シーズン中とシーズンオフで大きな差があります。
- ・朝の練習を実施していない学校は、4校あります。

6 大会前の練習時間は、どうしているの？

大会前(一ヶ月前～2週間前が多い)は、各学校で子どもたちが十分に活動できるような工夫をしています。

多く見られる工夫として、

時間の延長を認める。

学校一斉の休日も練習可能とする。

土曜日・日曜日も練習可能とする。

短縮日課・5時間授業を増やす。



などがあります。

学校では、学校長の許可を得て全職員の共通理解のもと進めたり、保護者へも通知したりし、大会前の活動に理解を得て進めています。また生徒の健康面・特に帰宅時の安全面(下校時刻の厳守など)には、配慮がされています。

7 休日(放課後 ノー部活デー)の実態は？

学校一斉に休日を設けている学校は約71%あり、また学校一斉ではないが、休日を各部で設けている学校は、約8%あります。約79%の学校では、休日を設定していることとなります。

休日は、月曜日・水曜日が多くなっています。

8 週5日制になったけど、部活動は？

【土曜日】

年間を通じて計画的に実施する 約56%(昨年50%)

大会前のみ実施する 約37%(昨年41%)

【日曜日】

年間を通じて計画的に実施する 約42%(昨年35%)

大会前のみ実施する 約37%(昨年43%)

土曜日・日曜日については、年間を通じて計画的に実施をしている学校・大会前のみ実施を認めている学校が多数を占めています。特に年間を通じて計画的に実施する学校が増えてきています。

また、土曜日に実施した場合は、日曜日は休みにするなど、どちらか一日は休みにする、実施しても半日のみとしている学校が多くあります。

実施にあたっては、保護者へ通知し理解を求めたり、地域の行事を優先する申し合わせをつくったり、郡市で申し合わせをつくる等配慮が見られます。

9 学校の運動部活動以外でも活動しているところは？

運動部活動終了後や日曜祝日などに地域のスポーツクラブ(社会体育)にも所属して活動している部員のいる部数は、521部(115の学校 約60%の学校)があります。(昨年度 571部 131の学校 約68%の学校)そのうち、学校の運動部顧問の先生だけに指導されている部は約20%、学校の顧問

と地域の指導者に指導されている部は約62%、地域の指導者だけに指導されている部は約18%になります。

10 合同部活動は必要？

【部員不足のため昨年度大会に出場できなかった部】

8部(昨年度9部)

【今年度から廃部等になった部】

13部(昨年度14部)

【近隣校との合同部活動の必要性】

今後必要である 47%



少子化に伴い、大会に出場できない部や部が継続できない状況が続いているところもあります。また合同部活動を視野に入れている学校も半数近くあり、今年度は13校で実施予定があります。

11 顧問の先生は専門家？

運動部の指導に携わっている顧問の先生は、2,830名います。そのうち運動経験がなかったり自分の専門外の種目を指導したりしている顧問の先生は、約65%(1,841人)います。

12 外部指導者の活用は？

外部指導者は、昨年度は115校(約60%の学校)で637名が活用されています。(一昨年度129校 約67%の学校 546名)外部指導者数は増えています。

13 保護者への理解は？

保護者との部活動懇談会を実施している部のある学校 約99%

部活動参観を実施している部がある学校 約86%

部活動通信を出している部がある学校 約87%

学校一斉に部活動懇談会を実施している学校は、約86%あり、活動に対する理解を得るよう各学校では取り組まれています。

また部活動については、多くの学校で「学級・学年だより」「PTA新聞」等で保護者へ活動の紹介・連絡等が行われています。

地域の方との部活動懇談会を実施している学校が約29%あります。

(H15 24%、H16 26% H17 28%)

14 部活動中に多いケガは？

最も多いのが、捻挫・脱臼(1,063件)、次に骨折(606件)、打撲・肉離れ(415件)、創傷(265件)、突き指・関節損傷(210件)等となっています。ケガの発生率は、全運動部員数の約7.6%(昨年度約8.1%)あります。

件数は昨年度スポーツ振興センターへ申請されたもの

15 総合型地域スポーツクラブと部活動の関係は？

現在、総合型地域スポーツクラブが立ち上げられている中学校区は、約1割あり、そのうち3分の1近くで部活動と総合型地域スポーツクラブとの連携が

図られてきています。また立ち上げが進められている中学校区は、約2割近くあり、多くの学校がよりよい総合型地域スポーツクラブとの関係を探っていこうとしています。

16 スポーツ活動運営委員会の立ち上げは？

県教委が推進している中学生期の「スポーツ活動運営委員会」の組織は25校あり、徐々に増えています。組織のメンバーも市町村教委、保護者、外部指導者、体育指導委員、体育協会、スポーツ少年団の代表などが多いです。

考 察

運動部員数の占める割合は、毎年約65%前後であり大きな変化は見えない。男女の加入率の差もほぼ大きな変化はない。

朝の練習は、約98%の学校で実施しており、通年30~45分が定着している。生徒の健康・学校生活に支障をきたさないよう更に配慮をしたい。放課後の練習時間は、大会前はどの学校も時間の延長等工夫し、十分な時間が確保されている。しかし、シーズンオフの練習時間は極端に少なく、これからの課題である。

休日(ノー部活デー)は、各学校の実情にあった設定の仕方がされている。朝・放課後ともに休みとする学校も増えてきており、休日の意義を考えると望ましいと思われる。

土曜日・日曜日については、大会前のみの実施や年間を通じて計画的に実施する学校が多く、実施してもどちらか一日は休みにする傾向にある。学校週5日制の趣旨を踏まえながら、生徒・保護者・地域への理解を図り、各学校・地域で望ましい方向で運営していきたい。

地域のスポーツクラブ(社会体育)として活動している学校は約6割あり、部活動との連携が図られている傾向が見られる。学校長の判断のもと全職員の共通理解を図り、保護者・地域との連携を密に進める必要がある。

合同部活動の大会参加は平成16年度から認められているので、生徒のニーズに応じた合同部活動を積極的に進めていく必要がある。

外部指導者数が増えている。外部指導者の確保や外部指導者との連携がスムーズに行くよう各学校で配慮する必要がある。

多くの学校が保護者への理解を深めるために、部活動参観や部活動懇談を行ったり、部活動通信等を出したりしている。今後は保護者のみならず地域へも理解を深めていく必要がある。

部活動中に起きる傷害が更に少なくなっていくよう最大限の努力が大切である。科学的なトレーニング法、傷害に対する応急処置等の研修等を充実していく必要がある。

総合型地域スポーツクラブと部活動の関係については、更に市町村や地域と研修を深める必要がある。

平成19年度末までに「スポーツ活動運営委員会」を中学校区ごとに立ち上げてもらうよう県教委としてお願いしている。

生涯学習の一環としてのスポーツ活動を地域・学校・家庭がともに力を合わせ、それぞれの実情に応じて子どもたちに保障する必要がある。

